

## 大阪大学経営協議会（平成30年度 第2回）議事要旨

日 時 平成30年9月18日（火）13時30分～15時45分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 西尾総長（議長）

大石、尾崎、鈴木、津賀、土屋、友野、村尾、CASSIM、米田、三成、小林、八木、  
河原、吉川、工藤、鬼澤、下村、田島、村上、有川 各委員

欠席者 池上、井上、井野瀬、鳥井、野路、小川 各委員

議事に先立ち、西尾議長より会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。  
また、前回（6月11日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

### 議 事

#### 【議事】

#### 1 副学長、総長参与及び総長特命補佐の指名について

西尾議長から、配付資料に基づき、平成30年8月25日の任期満了に伴い、副学長5名、総長参与3名及び総長特命補佐6名を引き続き指名したことについて報告があった。

#### 2 指定国立大学法人について

西尾議長から、配付資料に基づき、指定国立大学法人制度の対応状況について報告があった。

#### 3 平成31年度概算要求事項について

三成委員から、配付資料に基づき、文部科学省から財務省へ提出された平成31年度概算要求事項について報告があった。

#### 4 教職員の給与について

鬼澤委員から、配付資料に基づき、大阪府の最低賃金額の改定に伴う就業規則の一部改正について説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 5 前回のご意見に対する取組状況について

西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助言に対する取組状況について報告があった。

## 【その他】

### 1 「大阪大学の集い in 東京」の開催について

吉川委員から、配付資料に基づき、「大阪大学の集い in 東京」への参加案内があった。

## 【意見交換】

### 1 社会ソリューションイニシアティブ (SSI) の活動を通じた持続可能な共生社会について

社会ソリューションイニシアティブ長である堂目総長特命補佐から、配付資料に基づき、社会ソリューションイニシアティブ（以下「SSI」という。）の概要及び活動状況について説明があった後、学外委員から以下のような意見があった。

- ・社会課題の解決は人材も資金も必要になるため、SSIと社会のステークホルダーとの連携が重要になる。課題の発見はSSIが主となり、ステークホルダーがヒトとカネをかけて事業に近い形で回していくと様々なテーマ、様々な国への展開も期待できる。
- ・様々な課題があったときに、それを課題解決型ばかりで取り組んで本当に学問として良いのか。課題から何か新しい学問ができていくというような深掘りをする動きが同時に進んでいくべきである。全員がソリューションに向かって流れていけば、あまり深いものがない。深いものを無駄とは知りながらやるのが大学の1つの役割であり、学問、研究なのではないか。その中で蛸壺的にならないよう、壁を取り払って風を通すためにSSIのような活動の意味があるので、そういったコーディネーションをしっかりとやってほしい。
- ・最近の学生は社会課題の解決のような学問領域にとっても興味がある。大阪大学の特色として、深い研究力に加えて、SSIのような活動もできるということは魅力になる。単なる偏差値の序列の中で「どの学部の偏差値がいくつだからそこに行く」という話ではない魅力になり得るので、ぜひ広く活用していただきたい。
- ・実務家の立場から課題を3点挙げると、1つ目はアウトプットの形、2つ目がスケジュール管理、3つ目がヒトとカネを付けていくこと。この3点セットがそろわないと、盛り上がっても、空中分解やお尻が見えない状態となる。特にアウトプットでは社会課題の解決策を提案した際、その提案を見て「面白い、資金を出そうか。」という人が出てこない、描いただけになる。どういう人が実行母体になるかを強烈に意識しておく、最後の提案がフォーカスされる。
- ・SDGsに真剣に取り組んでいるところには積極的に投資する、そうではないところには投資を引き上げるといように企業の評価をSDGsへの本気度、取り組み度によって評価して、投資先を変更する動きがある。そのようなSDGsの観点からの投資評価を行い、企業を評価していく動きも重要であるため、企業をその気にさせるような評価尺度、仕組みの定着についても検討していただきたい。
- ・文系中心で進められる中にサイエンティストがどのくらい賛同して参加しているかが重要であり、それが好調であればこの取組は成功する。定例で開催される会議体でサイエンティストの数が増えているかが1つの指標になるだろう。その点を確認しながら進めていた

だきたい。

- ・持続可能な社会を作っていくために、一番大事なことは人をどうやって育てていくかである。大事なキーワードの1つは潜在能力であり、日本はこれから人口が減り、研究者の人口も減っていく中で、どうやって日本の研究力を維持し続けるかとなると、人間が持っている能力を高め、1人だが2人分の活動ができる、そういう人間を育てるしかない。
- ・SSIがこのままうまくいけば、大阪大学のレピュテーションをさらに高めていくことに貢献するものであろう。「地域に生き世界に伸びる」の「地域に生き」の部分でこの大阪、日本での地域社会の様々な課題を解決していくのに役立ってくれることを期待している。さらに「世界に伸びる」という観点からも頑張っていたきたい。
- ・2030年、2050年という話であるならば、そもそも大阪大学がそのときにどのような姿になっているべきかについても考える方が良い。将来を見据えた時に、大学の組織、機能、体制が、全く異なる姿になっている可能性もある。したがって、既成の概念だけではなく、長期的視点から大阪大学自身の変革が求められよう。

(以 上)